

News Release

2016年3月11日

各 位

コカ・コーライーストジャパン株式会社

東日本大震災から5年 2016年3月11日 コカ・コーライーストジャパン 営業本部長コスティン・マンドレアが南相馬市長を訪問 「やさしい軟水 アクアボナ」1,000 ケースを贈呈

コカ・コーライーストジャパン株式会社(本社:東京都港区赤坂 6-1-20、代表取締役社長:カリン・ドラガン)は、東日本大震災発生から5年の2016年3月11日、震災で甚大な被害を被った福島県南相馬市に、備蓄水として活用していただくため、「やさしい軟水 アクアボナ」1,000 ケースを贈呈いたしました。



営業本部長コスティン・マンドレアより、「地域社会は、わたしたちコカ・コーライーストジャパンにとって大切なパートナーです。5年間さまざまな支援活動に取り組んできましたが、今後も、さらなる復興をめざしてともに前に進んで行きましょう。」のことばとともに、「やさしい軟水 アクアボナ」1,000 ケース(2LPET ボトル 6,000 本)の目録を南相馬市 桜井勝延市長に手渡しました。桜井市長からは「心温まるご支援を本当にありがとうございます。この南相馬市は避難している人口が日本で一番多い場所です。相馬野馬追など伝統を守る使命に支えられ、今だけでなく過去も未来も見据えて精一杯前に進んでいきたいと思っております。」と感謝のことばをいただきました。

参考資料:

コカ・コーラ・イーストジャパンと東日本大震災

社員自らが復興のチカラに ～ボランティア活動～

2016年1月16日 南三陸町で農業支援ボランティア活動を実施

営業本部長コスティン・マンドレアをはじめとする19名の営業本部メンバーが、宮城県南三陸町を訪問。入谷地区で、木々を薪用に切断し、薪を割る農業支援ボランティア活動を行いました。

南三陸町では、震災後、持続可能な循環型の町づくりの取り組みとして、2012年よりプロジェクトをスタート。漢方薬等に利用される薬草(トウキ)の無農薬栽培、商品のブランディング・流通経路の開発を推進しています。トウキの根を洗う大量の湯を沸かすため多くの薪が必要で、今回の農業支援を実施しました。



昼食は、復興を担う地元事業者32店が軒を連ねる仮設商店街「さんさん商店街」にて、地元の旬の食材を堪能しました。

南三陸町社会福祉協議会 事業局長 猪又 隆弘様による東日本大震災に関する講演を聴き、その後、南三陸町防災対策庁舎跡に移動し、献花を行いました。

<震災発生からの被災地支援活動の一部>

2011年6月27日 宮城県東松島市で津波被害の被災地支援活動

津波被害の大きかった宮城県東松島市で、日本コカ・コーラ株式会社と合同で被災支援ボランティア活動を実施。当社から26名、日本コカ・コーラから43名の社員が参加し、民家周辺の道路わき側溝に残る泥のかき出し作業に励みました。



2011年10月22日 宮城県七ヶ浜町で海岸・田畑のがれき撤去支援活動

コカ・コーラがグローバルに取り組む「国際海岸清掃活動」と連動して、宮城県七ヶ浜町で、日本コカ・コーラと合同で37名の社員参加による海岸および田畑のがれき撤去支援活動を実施しました。七ヶ浜町の海岸・田畑のがれき撤去支援は2012年にも実施しました。



2012年5月9日～6月15日 南東北エリアの社員全員が地域貢献活動を実施

旧仙台コカ・コーラボトリング株式会社の創業50周年を機に、地域のみなさまへ恩返しの気持ちを含めて、社員382名全員が期間中の一日、宮城県七ヶ浜町でのがれき撤去作業または水資源保護活動のボランティアを行いました。



2013年5月13日～5月31日 220名が宮城県南三陸町で農業・漁業の復興支援活動

早期復興の手助けとなるよう、15日間にわたり宮城県の社員220名が、海から流れたり、断層のずれで生じた大きな石を農地から撤去する農業復興支援、めかぶ削ぎや生わかめの計量作業などの漁業復興支援のボランティア活動に参加しました。



2013年6月22日 宮城県南三陸町でがれき撤去支援活動

宮城県南三陸町にて、東京エリアの社員とともに復興支援ボランティア活動を実施。45名の社員が参加し、JR気仙沼線歌津駅近くのがれき撤去作業に取り組みました。



2014年5月20日～6月13日 220名が宮城県南三陸町で養殖漁業支援活動

19日間にわたり、のべ220名が復興支援ボランティア活動に取り組みました。牡蠣殻に付着した大量の付着物を小さい工具で綺麗に削り落とす、“牡蠣磨き(殻掃除)”の作業を中心に、養殖に使用したロープの清掃や牡蠣の殻投げ、養殖牡蠣の種付け準備などの養殖漁業支援に携わり、復興の一助となるよう活動しました。



地域とともに、地域のみなさまのために ～地域貢献活動～

東日本大震災で4名の従業員の尊い命を失い、家族や親戚を失ったり、家屋の全半壊などの被害にあった従業員も多く、全従業員が悲しみに包まれました。また、当時の本社屋や各地の事業所の建屋・倉庫、販売機器の損壊など被害額も甚大なものとなりましたが、震災発生直後から自治体などの要請や救済が必要な地域への支援として約46万本(500ml換算)の飲料提供をはじめ、宮城県蔵王町の蔵王工場の井水を飲用水として、蔵王町、消防団、自衛隊に計75トン提供しました。その後も「できることから着実に、一步一步、前へ!」を合言葉に、全従業員一丸となって、飲料を必要とする地域のみなさま、お取引先様への製品供給や支援活動に努め、全国のコカ・コーラシステム各社からの応援により販売機器などの早期復旧を実現してまいりました。



子どもたちの笑顔のために ～製品売上の一部を寄附～

「やさしい軟水 アクアボナ」の売上の一部を

「東日本大震災みやぎ子ども育英募金」、「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」へ寄附

「やさしい軟水 アクアボナ」は、東日本大震災以降、高まる防災意識や安心・安全ニーズへの対応、さらには地域に密着した企業として安定した供給および災害時の迅速な供給体制を図るべく、蔵王工場にて2013年3月4日より製造され、宮城県・福島県・山形県にて販売しています。

2013年3月～2015年3月までの寄附金

東日本大震災みやぎ子ども育英基金 : ¥ 532,625

東日本大震災ふくしま子ども寄附金 : ¥ 436,486



「やさしい軟水 アクアボナ」2LPETボトル

子どもたちの笑顔のために ～寄付型自動販売機の設置～

コカ・コーライーストジャパンでは、東日本大震災の支援自動販売機を設置し、売上金の一部を「NPO 法人 JETO みやぎ」、「NPO 法人 子どもの村東北」に寄附しています。1都15県の販売エリアを持つ当社の強みを生かして、宮城県外でも積極的に展開しています。

設置台数：「NPO 法人 JETO みやぎ」支援自動販売機 21 台
 「NPO 法人 子どもの村東北」支援自動販売機 11 台



コカ・コーラならではの活動を ～復興支援の取り組み～

次世代教育を支援するさまざまなプログラムを日本コカ・コーラと合同で実施してきました。

- ✓ 東北3県でがんばっている子どもたちを応援し、町の“イトコ”自慢をもらうラジオ番組『いかすぜ！東北 ぼくたちのイトコ自慢』を提供（2013年4月～9月、2014年2月～7月、週1回放送 2015年4月～9月）
- ✓ NPO法人カタリバが岩手県大槌町・宮城県女川町で運営する放課後学校「コラボ・スクール」への支援
- ✓ 『アクエリアス 未来への夢はじめよう。』プロジェクトに、2011年から毎年、被災地で水泳に取り組む小中学生を特別招待



コカ・コーラ復興支援基金

「コカ・コーラ 復興支援基金」は、東日本大震災によって甚大な被害を受けられた被災地の復興支援のための資金拠出を目的に、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団内に、2011年3月24日にザ コカ・コーラ カンパニーにより設立されました。本基金は、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団の活動理念「心豊かでたくましい人づくり」に基づき、次世代を担う子どもたちの教育支援をはじめとした、3つの事業を実施しています。また、本基金は、日本コカ・コーラとポトラー社による物資提供（500mlPET ボトル換算で700万本以上）と義援金を通じた支援努力をさらに強化するものとして設立され、震災に対するコカ・コーラ社による支援総額は25億円以上となります。

「コカ・コーラ 復興支援基金」に関する詳細は、下記ウェブサイト
<http://j.cocacola.co.jp/corporate/ccjrf/> をご参照ください。

「コカ・コーラ 復興支援基金」で取り組む事業は、以下のとおりです。

➤ **公立小中学校へのエコ支援事業**

支援総額約 25 億円のうち 15 億円を、被災した岩手県・宮城県・福島県の公立小中学校の復興に拠出し、防災対応機能を備えた太陽光発電および蓄電池の設置に関する費用を助成しています。3 期で計 55 校以上への助成を決定しており、第 1 期に 11 校、第 2 期に 23 校、第 3 期は 21 校への助成を決定し、2015 年にすべての設置を完了しています。



➤ **コカ・コーラ ホームステイ研修プログラム** 参加人数 累計 257 人

岩手県、宮城県、福島県の高校生・中学生を米国・英国でのホームステイに派遣するプログラムを実施しています。自らの震災体験を踏まえて、国際社会において求められる、他国の文化・社会を理解する力を身に付けることを支援します。

「TOMODACHI サマー コカ・コーラ ホームステイ研修プログラム」(対象:高校生、3 年間)
日米両国政府と米日カウンシル(米国の非営利公益法人)が主導する被災地の教育支援プログラム『TOMODACHI イニシアチブ』の趣旨に賛同し、3 年間で 239 人の高校生を米国でのホームステイ研修に派遣しました。

2012 年は 60 名(各県 20 名)の高校生が、ワシントン DC を訪問後、4 つの州に分かれてホームステイを経験しました。2013 年は 119 名(各県 40 名)の高校生が、ワシントン DC と、コカ・コーラ本社のあるジョージア州アトランタを訪問した後、8 つの州でホームステイを経験。2014 年は 60 名をアトランタ研修・4 つの州に派遣しました。



「コカ・コーラ英国ホームステイ研修プログラム」(対象:中学生、1 年間)

「コカ・コーラ 復興支援基金」が文部科学省、ブリティッシュ・カウンシル・日本学生協会基金(JNSA 基金)の後援を受け実施。2012 年 8 月 6 日～8 月 19 日の期間で、計 18 名へ英国でのホームステイ研修を提供しました。

➤ **岩手県・宮城県・福島県や市町村のニーズに応じた直接支援**

岩手・宮城・福島における県または市町村のニーズに応じた、直接支援を実施しています。
岩手県沿岸被災地の高等学校および特別支援学校へのバス寄贈



2012 年 10 月 16 日、本基金より約 1 億円を拠出し、岩手県の高等学校および特別支援学校 5 校へ、計 5 台のバスを寄贈しました。これらは岩手県沿岸地域の水産業の復興を背景とし、沿岸被災地の将来を担う青少年の育成を支援したいという岩手県からの要望に応じたもので、学校から沿岸の施設等の実習先への移動手段として使用されます。

コカ・コーラプレゼンツ ヤングアメリカンズ東北ツアー

文部科学省の要請により、NPO 法人じぶん未来クラブが音楽公演と音楽教育を活動の柱とする米国の非営利団体「ヤングアメリカンズ」のキャストと実施する、『ヤングアメリカンズ東北ツアー』を支援。2012 年は 10 月 13 日～14 日には、「コカ・コーラプレゼンツ ヤングアメリカンズ東北ツアー2012 in 仙台」を開催し、仙台市の小中学生約 200 名がキャストとともに歌とダンスのショーを 2 日間で創り上げました。2013 年も、「コカ・コーラプレゼンツヤングアメリカンズ東北ツアー2013」を支援し、9 月から 11 月までに岩手県、宮城県、福島県合計 9 ヶ所で開催し、約 1,700 名が参加、2014 年度も継続して支援、6 ヶ所合計で、1,200 名以上が参加、3 年間で、3,100 名以上の子どもたちがダンスとショーのワークショップに参加しました。



「ダンスで日本を元気に！」中学生 Rising Sun Project2014

被災地域の中学生と EXILE のメンバーが練習を重ねて、「Rising Sun 2014 in Fukushima」ダンス発表会を支援しました。

【コカ・コーライーストジャパン株式会社の概要】

コカ・コーライーストジャパン株式会社(銘柄コード: 東証 1 部 2580)は、コカ・コーラ社製品の製造・販売を担うコカ・コーラボトラーとして国内最大の年間売上高を誇ります。

「コカ・コーラ」「コカ・コーラ ゼロ」「ジョージア」「いろ・は・す」をはじめとする、無糖茶、ジュース、スポーツドリンク、エナジードリンク、その他の炭酸飲料など、約 50 種類のコカ・コーラ社製品をお客様にお届けしています。

コカ・コーライーストジャパンは、2013 年 7 月 1 日、関東・東海地域(1 都 12 県)のコカ・コーラボトラー4 社(コカ・コーラ セントラル ジャパン株式会社、三国コカ・コーラボトリング株式会社、東京コカ・コーラボトリング株式会社、利根コカ・コーラボトリング株式会社)の経営統合により誕生しました。

2015 年 4 月 1 日には仙台コカ・コーラボトリング株式会社を事業統合し、南東北地域(宮城県・福島県・山形県)を含む 1 都 15 県を販売エリアとするコカ・コーラボトラーとなりました。

詳細は、コカ・コーライーストジャパンの WEB サイトをご参照ください。(www.ccej.co.jp)

コカ・コーライーストジャパン公式 facebook (<https://www.facebook.com/cococolaeastjapan/>)